



比婆山の神話に触れるハイキング 比婆山神話めぐりと護符の水

8月26日、休暇村吾妻山などを会場として「比婆山神話めぐりと護符の水」と題して、比婆山の史跡めぐりと自然観察会が開催され、市内外から31人が参加しました。

比婆山ハイキングでは、地元の越原みこと会の皆さんの案内で、比婆山神話に伝わる史跡を訪ねながら、ゆっくりと時間をかけて比婆山から吾妻山までを縦走。ハイキング講師も同行し、登山道沿いの草花や樹木についても、丁寧に参加者へ解説しました。参加者からは、「昔から言い伝えられてきた神話はとても興味深く、先人たちがいかに比婆山や吾妻山を信仰していたかがよくわかった」と話していました。

また、ハイキングの後、休暇村吾妻山で広島県無形民俗文化財である比婆斎庭神楽の「古式の舞」が上演され、古事記の世界の古式豊かな舞いを堪能しました。

高野グリーンサーキット でナイスショット

第3回高野町自治振興区グラウンド・ゴルフ大会

9月2日、高野町自治振興区グラウンド・ゴルフ大会(高野町自治振興区連絡協議会主催)が、高野グリーンサーキット公認コースで開催されました。

第3回を迎えた今大会は、高野地域の11自治振興区から代表選手男女96人が参加して、グリーン・林間・フラットコースの24ホールで熱戦が繰り広げられました。日頃の練習の成果を発揮し、ホールインワンが出る度に歓声が上がり、終始和やかな大会となりました。優勝は新市自治振興区A、準優勝は和南原自治振興区A、三位は上湯川Bチームという結果に終わりました。

高野グリーンサーキットでは、グラウンド・ゴルフコースのほか、レーザー銃で標的を狙う中国地方では唯一のレーザーガンゴルフが楽しめる18ホールのコースも併設しています。スポーツの秋、ちょっと変わったゴルフを楽しんでみませんか。



あなたのことを千年先の 「あの人」へ

「ことばの楽校」で永六輔さんが講演

総領の木屋自治振興区が9月19日、木屋癒香の杜で、永六輔さんをゲストに迎え「ことばの楽校」を開催し、市内外から多くの人で賑わいました。

永六輔さんは「食事の前に口にする“いただきます”の意味」など、ことばについての講演をユーモアたっぷりに話し、時折参加者から大きな笑い声が響きました。

木屋自治振興区は、あなたの大切なことを千年先のあの人へ届けようと、「心に響くことば公園」づくりを進め、人生訓やあの人に贈りたいことばを募集し、「心に響くことば大賞」を行っています。

この日は、第2回「心に響くことば大賞」の表彰式が行われ、上位入賞の作品を石碑にして設置しました。



市長が式辞

恒久平和への誓い新たに 戦没者追悼式並びに平和祈念式典

庄原市戦没者追悼式並びに平和祈念式典が8月23日、庄原市民会館で行われました。式には各地域の遺族をはじめ、関係機関・団体の代表者、小中学生ら約650人が参列し、戦火に散った故人のめい福を祈り、恒久平和への誓いを新たにしました。

式典で滝口季彦市長は「平和の大切さを改めて深く心に刻み、恒久平和を確立していくことが私たちに課せられた重大な使命。21世紀を平和の世紀として恒久平和の確立をめざすとともに、郷土の発展に全力を尽くすことを誓います」と式辞を述べました。

また、関西吟詩文化協会による追悼吟詠、庄原児童合唱団による児童合唱、庄原実業高等学校による吹奏楽演奏などが行われました。

「あの夏をもう一度」ロケ地で再会を楽しむ 大屋小学校で映画「ヒナゴン」の上映会

映画「ヒナゴン」の上映会が8月12日、西城の大屋小学校で開催されました。この映画は直木賞作家、重松清の小説を映画化したもので、37年前に西城町に出現した謎の類人猿ヒナゴンをモチーフに、合併に揺れる架空のまち「比奈町」と、「ヒナゴン」に思いをはせる住民の姿を描いています。平成16年夏、1カ月間のロケが行われ、休校中の大屋小学校は、比奈小学校として映画に登場。大屋地区では「あの賑わいをもう一度」と、実行委員会をつくり準備を進めてきました。校庭では、地域住民による屋台が出され、地元アマチュアバンドによる映画主題歌「すばらしい日々」などが演奏されるなど、和やかな雰囲気の中、上映会を楽しみました。

渡邊孝好監督と、映画に出演した子役の皆さんも大屋小学校を訪れ、映画「ヒナゴン」への思いや西城町での撮影の思い出などを語りあいました。監督自らが撮影編集した、井川遥さん、伊原剛志さんなど出演者からのビデオメッセージも披露され、監督は「ヒナゴンは私の原点のような作品。毎年夏が来る度、ヒナゴンと西城を思い出すでしょう」と話していました。



思い出を語る子役の皆さん



市長から敬老祝金を受ける土井さん

100歳以上に敬老祝い金 市内34人が対象、市内最高齢は104歳

9月の老人保健福祉月間にあわせて、9月19日と21日、滝口季彦市長が、市内の100歳以上の長寿者(明治40年3月31日以前に生まれた人)を訪問し、敬老祝い金を手渡し長寿を祝いました。

山内町の土井知慧子さんは、市長から祝い金を手渡されると、「わざわざ来てもらって、もったいないこと。本当にうれしい」と喜びました。また毎日仏様にお経を唱えることが日課という土井さんは、「何でも良く食べ、くよくよしないことが長生きの秘訣」と話していました。

いんこうしゅんぽう
カメラレポート
各地域で行われたイベント&話題を紹介するコーナーです。



すがすがしい気持ちで通学 東城郵便局がボランティア活動

9月2日、東城郵便局の職員が、東城中学校周辺の通学路の街路樹の剪定と草取りを行いました。この日は12人が参加して、2時間にわたり汗を流しました。

このボランティア活動は、地域対策の一環として毎年行われています。東城郵便局の平木幸夫局長は「登下校の安全はもちろんですが、すがすがしい気持ちで新学期を迎えてほしい」と話していました。

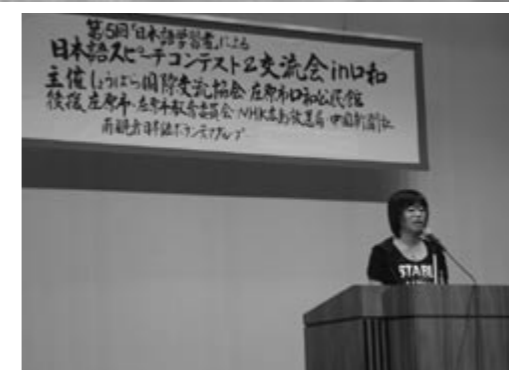


日本語学習の成果を発表 日本語スピーチコンテスト&交流会in口和

しょうばら国際交流協会と口和公民館が8月27日、口和文化ホールで「第5回日本語学習者による日本語スピーチコンテスト」を行いました。県内に在住している中国・内モンゴル・ベトナム・アメリカ出身の13人が日ごろの日本語学習の成果を発表しました。

市内から5人が出場し、藤原小雪さんは中国と日本の七夕祭りの違いを少女の視点でスピーチし、会場をわかせました。また、重症急性呼吸器症候群(SARS)とたたかっ経験話を話した県立広島大学主任研究員の肖黎さんは金賞を、「指差し確認」と題してパフォーマンスを交えながらスピーチした研修生のチャン・ニャット・チュンさんは審査員特別賞を受賞しました。

交流会では、フィリピンの家庭料理や盆踊りなどで楽しみました。



久保さんにふいごの使い方を学ぶ子どもたち

かつての伝統産業「たたら製鉄」に挑戦 小鳥原小学校が地元の歴史・伝統産業を学ぶ

8月7日、小鳥原小学校の児童が、「たたら製鉄」に挑戦しました。この取り組みは、地元の歴史や伝統産業に学ぶ総合的な学習の一環として行われたもので、来年3月児童数の減少により休校となる小鳥原小学校と地域への愛着を深めることを目的としています。

たたら製鉄は、炉に投じた砂鉄を木炭の燃焼熱で溶かす古代からの日本独自の製鉄法。森林資源に恵まれた中国山地はその中心地として栄え、小鳥原地区は、大正10年まで、たたら産業が続けられていました。

西城町在住の刀工久保善博さんの指導のもと、保護者も協力して、グラウンドに高さ1.5メートル、直径40cmの製鉄炉を設置。全校児童17人が汗だくになって、炎を吹き上げる炉に砂鉄30kg、木炭60kgを入れ、木製のふいごで風を送る作業を続けること6時間、不純物を取り除いた5kgの鋼の塊「鋳」ができました。

作業を終えた児童からは「すごく熱かったけど、ふいごで風を送るのはおもしろかった。たくさんの砂鉄と炭からできる鋼はほんの少いで、昔はとても大変な作業だったんだと思う」などの感想が聞かれました。久保善博さんは、「たたら製鉄を体験することを通して、たたらが栄えたふるさとの歴史や先人の知恵を子どもたちに知ってもらいたい。今回みんなでつくった鋼で思い出に残る物を作り、児童の皆さんに贈りたい」と話していました。

夏山ワクワクなぎなた フェスティバル

手作りの大会に16チームが参加

8月18日から20日の3日間、クロカンパーク内の道後山高原総合体育館で、「平成18年度夏山ワクワクなぎなたフェスティバル(第9回国体開催記念なぎなた競技大会)」が開催されました。なぎなた競技の普及と競技力の向上を目指すこの大会は、平成8年ひろしま国体なぎなた競技の開催から10年が経過する中、合宿練習と競技大会が一つになった他に類を見ない全国大会として定着しています。初心者を対象にした「基本の部」や「成年男子の部」も設けられており、選手、監督、保護者の皆さんが、主催者と一緒に大会運営に参加するなど、多くの特徴もっています。

今年は、千葉県や大分県など、遠方から16チーム約70人、小学生から社会人まで幅広い年齢層の競技者が参加しました。2日目の練習後の「ふれあいの夕べ」では、比婆牛や手打ちそば、トウモロコシなど地元産品を味わいながらの交流会が行われ、毎年参加する選手からは「今年も第二のふるさとに帰ってきました」との声が聞かれました。大会運営にあたった地元の「西城なぎなたこうじゅ会」の代表加藤広行さんは、「任意団体がこのような大会を運営するのは大変だが、遠方から毎年来てくれる人との交流を励みに、がんばって続けていきたい」と話していました。



なぎなたと剣道の異種試合

高齢者の事故防止・飲酒運転撲滅を目指す 秋の交通安全「セーフティアーチin総領」

9月20日、「秋の全国交通安全運動」の一環として、庄原地区交通安全協会などが市役所総領支所で秋の全国交通安全運動推進大会「セーフティアーチin総領」を開催しました。

大会には、総領保育所や総領小学校、地域住民など約100人が参加。高齢者の交通事故防止や飲酒運転の撲滅などを重点として、交通安全をPRしました。また、交通安全祈願のアクションとして、総領保育所の園児によるダンスや、黒目銭太鼓グループによる銭バイが披露され、総領地区老人クラブ連合会の山田久三さんと総領小学校2年生が『交通安全宣言』を行いました。

その後、行われた交通安全教室では、子どもたちがパトカーや白バイと一緒に写真を撮るなどして、喜んでいました。



交通安全教室

光る泥だんごと竹とんぼづくり 東城の公民館「夏休み子ども教室」

8月6日、帝釈環境改善センターで、横山利昭さんを講師に迎えて「光る泥だんごづくり教室」が開催されました。参加した子どもたちは「大きい泥だんごを作りたいけど、ひびがはいって難しい」と何度も挑戦していました。横山さんは「芯をしっかりと作る。仕上げ用により細かい土を使うことがポイント」とアドバイスしていました。

また、8月24日、内堀健康増進センターでは、河村昭人さんを講師に迎え竹とんぼを作りました。参加した子どもたちは普段あまり使うことのない小刀や鉋のこぎりなどに苦戦しながらも、何種類かの竹とんぼを作って飛ばしました。河村さんが製作した5cmぐらいの小さな竹とんぼを飛ばすと「こんなに小さい物が作れるなんてすごい。小さくても飛ぶんだね」と驚いていました。



光る泥だんごが完成



竹とんぼを作る子どもたち